

## 第53号

発行：令和3年12月

会員数：186名（11月末現在）

（家族会員=18名、個人会員=168名）

発行責任者：飯田 秀

編集責任者：出口 孝次

松浦武四郎記念館友の会

# 友の会だより

友の会事務局：

松阪市小野江町 383

松浦武四郎記念館内



「友の会」のHPは、松阪市HPの中にあります。

<http://www.city.matsusaka.mie.jp/site/takesiro/tomonokai.html>

（松阪市で検索してね）

## 「コロナ緊急事態宣言時の自己活動と今後に期待する」

倉田 進

上記のテーマで、飯田会長よりお声がけを頂き、久しぶりにパソコンのキーを叩いたものの、筆は遅々として進まず苦心の上、次のような記述の文章になりました。

私には、新型コロナが日本国内を席卷するようになってから早二年、心に残る感動の日が二日ある。それは、50年ぶりの秘佛御開帳に合わせて、紀伊三井寺に祈願に訪れた時、5月26日と、8月11日のコロナワクチンの2回目接種完了の時である。いずれも、コロナ撲滅を目指しての自己防衛の手段の一つに過ぎないのであるが、その他に、3年前より伊勢神宮両宮と月夜見宮・猿田彦神社を毎月20日前後に必ず月参りを行うことが、私のルーティーンになっている。

そこでは、コロナ禍の町中のいろいろな風景や人の流れ、特色等、今後ふたたび目にしないと思われるその時々での自己の体験、見聞を、写真と共に文章に書き留めておきたいと思って、日々日記に記帳を続けています。こうした意識は、友の会の活動を通じ、講演会等で《松浦武四郎イズム》に接したことによる久しい成果だと思えます。

日々の自己の好奇心的行動の『何でも見てやろう、行ってみよう、そして自己体験をしてみよう』という精神は、これから先も失敗を恐れず持ち続け、果敢にアタックしていこうと思います。

最後になりましたが、『武四郎イズムを愛する友の会会員の皆さん』、コロナ禍・第六波が再来しようとも、この困難に果敢に立ち向かい、駆逐しようではありませんか。



## 「松浦武四郎をたずねて北海道へ」と題して、高瀬淑子さんが講演

8月8日（日）には、松浦武四郎記念館友の会主催の武四郎講座を開催し、役員でもある高瀬淑子（たかせよしこ）さんが、講演しました。自身の体験を通して見つめた松浦武四郎さんを見事に語られました。その講演内容を紹介します。

### はじめに

私は、松浦武四郎の足跡をたずねて、九州、四国、佐渡、東北など各地を旅しました。

なかでも北海道は、1999年5月から、2000年5月までの1年間滞在し、その後も、毎年1ヶ月から3ヶ月北海道を旅して素晴らしい成果と思い出をいただきました。そのことを中心にしてお話させていただきます。



小野江公民館で講演された高瀬さん

## 豪華絢爛にして優雅華麗、博識のコトランがアイヌ民族の 聖なる山と語った後方羊蹄山の世界

夢と期待を抱いて渡った北海道の最初の滞在地は羊蹄山  
の見える倶知安町の別荘地帯でした。倶知安町の5月はカッ  
コウ・ホトトギスが鳴き、カタクリ・エゾエンゴサク・ヤチ  
ブキ・水芭蕉などの花で埋め尽くされた別世界で、近くの山  
荘の広大な花畑にはルピナスが咲き、山を越えた向こうの洞  
爺湖湖畔には一面のタンポポ、その中に、梅・桃・桜の花が  
一斉に咲き誇り、まるで、桃源郷のようでした。

後方羊蹄山（しりべしようにいざん）は、どっしりと構え  
て真っ白に輝き、その山麓には、松浦武四郎が記録したアイ  
ヌ民族セベンケに導かれて渡った尻別川がみごとに輝いていました。まさに、松浦武四郎が描いた「後方羊  
蹄日誌」の世界でした。

武四郎さんが、「その形あたかも富士のごとし、その景勝に見とれて佇む」と記録して登ったこの山に登  
らないわけにはいかない。そこで、半月湖から挑戦し、5時間。山頂からの眺望に仰天しました。武四郎さ  
んは、2月に登ったと記録しています。おそらくこれはフィクションであろうと思われるが・・・

## 人生を変えた運命的な出会い・久摺日誌の世界

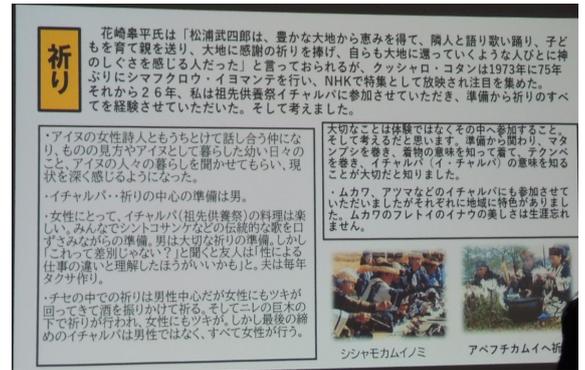
1999年6月、私は屈斜路湖畔の美しいコタンで一人の女性と運命的な出会いをしました。彼女はアイ  
ヌ民族であり、「久摺日誌（くすりにっし）」に載っているイソリツカラの子孫だという。驚いてさらに詳  
しく調べてみると、なんとこの女性は、安政5年、松浦武四郎が屈斜  
路湖上から調査した時の水先案内人の子孫でした。イソリツカラは湖  
上で強風が吹き荒れ身の危険が迫った時、見事な対処をしたその人だ  
でした。私も驚いたが、その女性の驚きは更に大きく、私たちの絆は一  
気に深まりました。

その年の秋、一族、そしてコタンの方々に温かく迎え入れられて、  
豊かな秋の実りを楽しみ、この年だけでも4ヶ月をこの地で過ごしま  
した。その間、文化伝承学習会、カムイノミ・イチャルパ（祖先供養  
祭）の準備から祈りまでに参加、神話の世界の学習の機会をもらって、  
アイヌの人たちの生活やものの観方、考え方など「学び」を大切にす  
る充実した日々を過ごすことができました。

アイヌの人々は、すべての自然事象に神が宿ると考え、生活する術  
を教えてくれるエカシやフチなど老人を大切にし敬うすばらしい民  
族だと心の底から感じました。

## 摩周岳・西別岳として、その先に驚きの野付半島が

屈斜路湖から根室海峡へ向かう中間に摩周湖があります。その湖  
は、流れ出る川がありません。湖底から地下水となり、泉となって湧  
き出て西別川の源流となっています。その摩周湖をつくる外輪山に摩  
周岳があり、そこへは、アイヌの人たちは未だ登ったことがないとい  
います。カムイトー（神・湖）とあがめる摩周湖の上にそびえる摩周  
岳はアイヌ民族にとって聖なる山として祈りを捧げるところだから  
です。武四郎さんは、その摩周岳へアイヌの案内人とともに登りまし  
た。



## 思いのこもったプレゼンテーション

思いのこもったプレゼンテーション

## 摩周岳・西別岳として、その先に驚きの野付半島が

### 「北海道で松浦武四郎を」元校長が講演

北海道の名付け親で知られる松浦武四郎（1818～88）の足跡を20年以上かけて調べている元小学校長、高瀬淑子さん（82）が8日、松阪市の小野江公民館で講演した。地元出身の武四郎が書き残した記録の重要性とアイヌの人たちとの交流を北海道の雄大な自然を絡めながら話した。

演題は「北海道で松浦武四郎を」。「あやうしりべつ川の白波を命にかけてけふわたりけり」など、武四郎の和歌を引用し、北海道の風景写真、地図

松阪の高瀬淑子さん  
アイヌとの交流など語る

などを盛り込んだスライドを上映しながら講演。「信頼関係を結んだアイヌの人たちがいたから蝦夷地の奥まで探検でき、和人の悪行にも目をつぶらなかつた」とその功績をたたえた。

（菊地洋行）

講演会でアイヌ民族の衣装を身につけた高瀬淑子さん  
＝松阪市の小野江公民館

8月9日(月)の朝日新聞朝刊の記事

その後、武四郎さんは西別岳を越えて西別川に向かいます。この旅の目的は、秋味（鮭）が不漁でアイヌの人たちが飢餓の状態であるが、それは「留網」のせいに違いないと様子を調べにいったのです。和人が川を網で仕切って、アイヌの人にとって最も大切な食糧の鮭を遡上できなくする理不尽さに怒り、行動しようとする探究心あふれる武四郎の姿に感動しました。私もその足跡をたずねるために、アイヌ民族の友人と摩周岳、西別岳に登りましたが、へとへとになり、改めて武四郎さんの健脚ぶりに驚かされました。

野付半島は、知床と根室半島の間にある日本最長の砂州です。武四郎さんが調査したころ、国後島へは15kmと最短距離であるここに、重要な通行屋番屋があり、武四郎さんが深く信頼を寄せた加賀伝蔵という人がいました。茶右衛門と改名したアイヌの人が伝蔵をたずね「この番屋の地元に畑を拓き、穀物や野菜を作りたい。おまえ様だけが幕府のご趣旨を守っておられるので相談にのってください。」と言いました。そこで伝蔵は茶右衛門の心意気に感動し様々な種子を取り寄せて一緒に試作したそうです。そのことを「近世蝦夷人物誌」に書いています。武四郎さんは、伝蔵に手紙を送り、蝦夷地のことを心配し自分を助けてくれたアイヌの人たちの世話をお願いしています。また江戸で手に入らない筋子を送ってほしいと頼み、伝蔵が送るとお礼に自分の出版物などを送りました。それが今、別海町の加賀文書館に残されています。



心癒やされる話に聞き入る皆さん

私は、野付の自然、歴史と加賀伝蔵に心ひかれて、今沈みゆく野付通行屋番屋を5度たずねました。

### まとめとして

私は何度も北海道をたずねて、松浦武四郎の広大な蝦夷地への知識と膨大な記録は、アイヌの人たちへの信頼と深い理解の結果であり、その力は長い旅で培われたものであったことを実感しました。

私は松浦武四郎が立った事実の現場で記録を読み、その情景があまりとうかぶ思いがしました。また女性であるからこそ感じる文化もあつたように思います。これからも更に力を貯えて旅を続けたいと願っています。

## 『エゾヤマザクラの現在の状況』

松浦武四郎記念館友の会が発足した時、北海道千本桜運動（北海道新聞社等）に応募し、4年間にわたって、合わせて30本の苗木を無償で郵送して頂き、嬉野や津市の山林に仮植樹してから、小野江小学校敷地内と武四郎記念館北の広場周辺に9本植樹して育成管理してきました。

台風で1本は根こそぎ倒れて枯れ、学童保育施設建設に伴い1本を移植しました。8月中旬に8本の内2本の落葉があり、幹の表面にはキノコが生えていました。

そこで、鈴鹿市の中村樹木医に写真を見て頂いたところ、移植したばかりで根が張っていないので、根元周辺に深い溝を掘って、水をたっぷりやってとのこと。9月末まで暑い期間は毎日指示通りに継続しました。その後、雨が長く降ったからか移植した2本のエゾヤマザクラに30から40個の花が咲きました。（今年は異常気象から、他の桜などでも秋に花が咲いているそうです。）

10月8日時点でも、25個ほどの綺麗な花が見られ、1本は、白っぽいですが、県道沿いの1本は、ピンク色でひときわ目立って咲いていました。

来年の4月には、小野江公民館建設で移植したのも合わせて4本のエゾヤマザクラが、どの程度花を咲かせてくれるのか心配でもあり楽しみでもあります。今後の経過を見守っていきたいと思います。



10月に咲いたエゾヤマザクラ

## 【記念館からのお知らせ】

### ☆記念館講座のご案内(小野江公民館にて)

- 12月12日(日)10:00～：テーマ：「坂本龍馬と松浦武四郎」  
講師：山本命主任学芸員
- 1月9日(日)10:00～：テーマ：「平松楽斎と松浦武四郎」  
講師：山本命主任学芸員
- 2月13日(日)10:00～：テーマ：「松浦武四郎の子ども」  
講師：山本命主任学芸員
- 3月13日(日)10:00～：テーマ：「松浦武四郎の登山」  
講師：山本命主任学芸員

### ☆松浦武四郎誕生地のご案内

松浦武四郎誕生地では、武四郎誕生地トークとして、1月16日(日曜日)には、「大名の通行と須川村」(日本福祉大学の鈴木えりもさん)、誕生地講座として、2月6日(日曜日)には、「共感の魅力 紙芝居を楽しもう」(ニッポン高笑い一座 日本笑い学会会員の竹守伸一さん)をそれぞれ開催します。詳しくは、武四郎記念館へお問い合わせください。

武四郎記念館事務局 0598-56-6847

## 【友の会よりのお知らせ】

### 9月2日の市政バスツアー、10月予定の伊勢方面バスツアーの中止について

楽しみにしていただいていたバスの旅でしたが、コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が発令されたことにより、中止を余儀なくされてしまいました。市政バスツアーについては今年の実施はできませんでした。友の会独自で企画した伊勢方面へのバスツアーについては、いつ出来るか探っていきます。



### 今後の予定

#### 2022年1月29日(土)「拓本体験会」を開催します。

昨年度に続いて、第二回目の拓本体験会を開催することになりました。初めての方も大歓迎です。

場所は、武四郎記念館が閉館中の為、小野江公民館大研修室です。参加費が500円必要です。参加申し込みは、武四郎誕生地までお願いします。締め切りは、12月12日までですが、定員を15名にしますので、キャンセル待ちになることも考えられます。お早めにご連絡ください。

**2月27日(日)に恒例の「武四郎まつり」は開催されません！再来年2月の開催をリニューアルした武四郎記念館で盛大に行えるように祈りたいと思います。**

### 会費の納入がまだの方はいませんか？

令和3年度の年会費を、8月迄に納めることができなかつた方はなるべく早く納入をお願い致します。連絡が無い場合は、除籍にさせていただきます。

口座振込みをご希望の方は、役員または記念館事務局 0598-56-6847へお問い合わせください。

**次回の発行は、4月の予定です。**

11月14日(日)には、松浦武四郎記念館友の会主催の武四郎講座を開催し、石水博物館学芸員桐田貴史さんに講演していただきました。テーマは「松浦武四郎の読書と川喜田家の蔵書」でした。

講演内容は、次号にて紹介します。お楽しみに。



新規会員募集中です！お友達にも声をかけてね！

